

<p>研究成果</p> <p>3,000 字程度 (別紙添付可)</p>	<p>2017/2018 年度に引き続き、今年度も月に 1 回 (主に第 3 月曜日 13:00~15:00)「ピアサポ Park OKINAWA」の名前で、ピアサポートに興味関心のある人らが、月に 1 度 (定期的に) 気軽に集まり、交流や情報交換ができる公園みたいな場づくりを行った。参加者は、平均 15 名前後 (9~24 名) と 2017/2018 年度より新規利用者も増え参加者数が増えた。定着しての参加者が 10 名程主に精神障がいを持つ者が主であり、その他にも支援者・家族・身体障がい・発達障がいを持つ者などの参加があった。内容は、参加者同士の交流や情報・意見交換を中心に対話を行った。</p> <p>これまで精神障害者の経験交流に関する研究を行う中で、障がいを持つ当事者同士だけではなく障がいの有無を越えた交流やピアサポートが有用であることがわかってきた。そのようなピアサポートを体験でき活用できる WRAP (元気回復行動プラン) がある。これまで WRAP の 2 日間の集中クラスを受講したいとの要望があった。今回、沖縄県と沖縄県作業療法士会が主催のするピアサポーター養成研修においてこれまで参加者の少なかった。言わばピアサポートへの関心が比較すると低い宮古島にて WRAP 集中クラスを 2 名の講師を招き 2019 年 12 月に実施した。参加者の多くは WRAP を通してピアサポートを体験し自らが元気になるピアサポートに興味関心を抱いていた。今後、離島でもピアサポートの興味関心や必要性が広がる種まきを行うことができた。</p> <p>1 月に、ピアサポートに関する「きらりの集い 2020in 東京」という自分の人生を生きる当事者同士として、互いの経験から学びあう“ピアサポート”と、自分らしい生き方を探求する“リカバリー”をテーマとした全国規模のイベントが新宿文化センターと明治大学で行われピアサポ Park OKINAWA のメンバー 2 名が参加し、体験し交流し、学び、伝達講習を行った。全国各地のピアサポートに関わる方々と情報交換や交流を行うことができた。当研究事業の紹介を行うこともできた。また今後のピアサポート活動のヒントを得ることができ共有することができた。</p> <p>2 月に、家族まるごと支援と家族のリカバリー研修にピアサポ ParkOKINAWA に参加する当事者なども参加、そこで当研究事業の紹介や情報交換や交流を行い、新たなピアサポートの関係性をつくることができた。その翌日にはピアサポ ParkOKINAWA 特別版として、その研修に参加した県外の方々と共にさらに深く情報交換や交流を実施することができた。</p> <p>また、浦添市自立支援協議会住まい・地域移行部会より、当事者の話を部会で聞きたいとの要望あり、ピアサポ ParkOKINAWA に参加する当事者 4 名とともに自立支援協議会に参加し体験談を話し、当事者の経験や声から学び、当事者自身が貢献する機会をつくることができた。</p>
--	--

ピアサポートや当事者活動が低迷している県内において、経験交流を大切にした集まる場をつくることで、交流・情報交換が生まれ、つながりや学び合う場作りやその効果を確認することができた。1月には昨年度の忘年会に引き続き参加者の当事者より交流会（新年会）をやろうとの発案と企画により交流会（新年会）を行うなど集団としても成熟しつつある。また、沖縄県が行うピアサポーター養成研修のアフターフォローの場としても活用されて機能している。県内外においてピアサポートについての窓口となりつつあり、さらに情報交流等が行えている。今後のピアサポートや当事者活動基盤作り、障がいの有無や所属・立場を超えたコミュニティづくりへ影響（前進）を与えることができた。精神障がい者を取り巻く長期入院や地域の中での偏見などの課題に対しても、当取り組みがひとつの糸口になる可能性も高いと考える。

今後について。これまで当研究にて取り組んできた実践は上記のような成果・効果を出した。これらの実践は沖縄大学地域研究所協力のもとアネックス共創館を使用することができたからである。場をつくるためには、使用できる場所と人が不可欠である。どんなに効果予想され素晴らしい取り組みでもそれを行う場所や人などがなければ行えない。当研究を継続することで取り組みを継続することで、さらなる研究・検証と実践を行い、ピアサポート活動の拡充を行い、精神障がい者を取り巻く長期入院や偏見などの課題解決に取り組んでいきたい。そのことで誰もが暮らしやすいコミュニティづくりを行う。